

July 4, 2019

【前日の為替概況】ドル円、小幅続落 6月ADP全米雇用報告が予想を下回ったことで下押し

3日のニューヨーク外国為替市場でドル円は小幅に続落。終値は107.81円と前日NY終値(107.88円)と比べて7銭程度のドル安水準だった。6月ADP全米雇用報告が予想を下回ったことで107.59円付近まで下押ししたものの下値は堅かった。ダウ平均をはじめ、米株3指数がともに過去最高値を付ける動きとなるとじりじりと値を上げ、一時107.89円付近と本日朝方に付けた107.92円に迫った。一方、米10年債利回りは低下基調となったため、上昇のスピードは緩やかだった。

ユーロドルは小幅ながら3日続落。終値は1.1278ドルと前日NY終値(1.1285ドル)と比べて0.0007ドル程度のユーロ安水準だった。欧州委員会が伊に対する過剰財政赤字是正手続き(EDP)の発動を見送ったことで伊債券・株価が上昇したことがユーロ高につながったうえ、トランプ米大統領がツイッターで「中国と欧州は大きな通貨操作ゲームをしている」とつぶやくとドル安が進み、一時1.1312ドルと本日高値を付けた。

ただ、昨日と同様に1.13ドル台では戻り売りが旺盛だった。ラガルド国際通貨基金(IMF)専務理事の次期ECB総裁指名により、緩和路線継続との見方からユーロを積極的に買いづらい面があり、その後は1.1270ドル台まで下押しした。

ユーロ円は3日続落。終値は121.60円と前日NY終値(121.76円)と比べて16銭程度のユーロ安水準だった。欧米株価の上昇で豪ドル円などオセアニア通貨のクロス円が堅調に推移したため、ユーロ円もつれる形で121.80円付近まで値を上げた。一方、対オセアニア通貨でユーロは軟調に推移したため上値も限られた。

なお、カナダドル(CAD)は堅調に推移。5月カナダ貿易収支が赤字予想に反して黒字となったことでCAD買いが先行。原油先物価格が反発したことも資源国通貨とされるCAD高につながり、対ドルでは1.3058CADと昨年11月8日以来の水準、対円では82.58円までCAD高に振れた。

【本日の東京為替見通し】米独立記念日・米雇用統計控え小動きか、独仏主導のEUの動き警戒

本日の東京市場のドル円は、米国市場が独立記念日、明日5日には米雇用統計の発表を控えていることで、値動きは限定的だろう。昨日の東京時間に107円半ばを複数回トライし、107.50円を割り込むことに失敗したため、ドル円が本日の東京時間で再び107円半ばをトライするのは難しいと思われる。しかし、依然として地政学リスクなどがあるため、上値を追いかけてドル円を買うほどのトレンドに戻すのは難しいだろう。また、7月4日という米国にとっての重要な祝日を狙って、中東諸国などが米国を挑発する行動に出る可能性も否定できないため警戒したい。

ドル円の上値を限らせるもう1つの大きな要因としては、昨日トランプ米大統領が「中国と欧州は大きな通貨操作ゲームをしている」と呟いているように、ここ最近の米大統領は通貨安に対して非常に敏感な発言が多くなっていること。日本に対しても同様に不満を持っているのは確かだろうが、今月21日の参議院選挙が終わるまで、日本に対しての言及を控えているようだ。すでに下交渉では為替条項を取り入れること、または円安誘導を行わないことなど、安倍首相と米大統領で密約が結ばれている可能性もあるため、円安が進むのは難しい状況だろう。特にG20の訪日前に安保問題にまで言及している米大統領の圧力は、相当なものとも思われる。

明日のNYカットで108.00円、107.50円、107.00円にまとまったオプションが控えていることも、ドル円の動きを狭めることになりそうだ。

ドル円以外では、ここ最近では比較的狭いレンジで取引が続いている欧州通貨の動きには警戒したい。フランス人のラガルド国際通貨基金(IMF)専務理事氏が欧州中央銀行(ECB)総裁に指名され、欧州委員長はドイツ人のフォンデアライエン氏が指名された。ここ最近では欧州連合(EU)の中では独仏とそれ以外の国との経済ギャップの差で、独仏以外の国の不満が高まっている。ブレグジットのように、EU離れや欧州各国がより右傾化・保守化する傾向が高まる可能性もある。今日、明日にこの問題が表面化することはないかもしれないが、EUの混迷が深まると思われるので、いずれ大きな問題に発展しそうだ。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

<海外>

○10:30 ◇ 5月豪小売売上高（予想：前月比 0.2%）

○15:30 ◎ 6月スイス消費者物価指数（CPI、予想：前月比▲0.1%）

○16:00 ◎ レーン・フィンランド中銀総裁、講演

○18:00 ◎ 5月ユーロ圏小売売上高（予想：前月比 0.3%／前年比 1.6%）

○18:10 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演

○米国（独立記念日）、休場

5日

○08:30 ◇ 5月家計調査（消費支出）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

3日 7:15 トランプ米大統領

「クリストファー・ウォーラー氏を米連邦準備理事会 (FRB) 理事に指名する」

「ジュディー・シェルトン氏を FRB 理事に指名する」

3日 23:26

「中国と欧州は大きな通貨操作ゲームをしている」

「米国に対抗するため、彼らは通貨操作ゲームのシステムにお金をつぎ込んでいる」

「我々はそのゲームと戦うべきだ」

3日 10:34 布野幸利日銀審議委員

「経済や物価、金融情勢を踏まえて適切に金融政策を行う」

「2020年春頃を超えて現在の低金利を維持する可能性は十分ある」

3日 14:13

「現時点で追加緩和は必要ない」

「将来モメンタムが喪失すれば躊躇なく対策が必要」

3日 19:13 メスター米クリーブランド連銀総裁

「FRBの予想よりも、成長が鈍化している可能性」

「FRBは、市場の期待感を斟酌しない」

「FF金利は、中立金利付近で推移している」

「利下げを決定する前に、インフレデータが必要」

「インフレ率は、2.0%付近へ収れんする見通し」

3日 19:37 トルコ政府当局者

「個人の外貨購入にかかる銀行・保険取引税を0.1%から0.2%へ引き上げる計画」

3日 20:26 ロウハニ・イラン大統領

「ウラン濃縮を2015年の核合意で規定した上限を超えて、必要な水準まで行う方針」

3日 21:00 イタリア政府高官

「欧州委員会はイタリアに対する懲戒処分を行わないと決定」

3日 23:16 クシュナー米大統領上級顧問

「トランプ大統領はパレスチナ大統領にとっても好意的であり、和平案への取り組みに前向き」

3日 23:46 ビルロワドガロー仏中銀総裁

「金融政策は能動的であるべき」

「ラガルド氏は素晴らしい ECB 総裁になるだろう」

「ECBの金融政策は緩和的なままだろう」

4日 00:47 劉晓明・中国駐英大使

「英国の香港への介入は英中関係に悪影響」

「英国の香港へ対応は間違っている。香港は植民地政策の時代とは違う」

4日 03:16 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

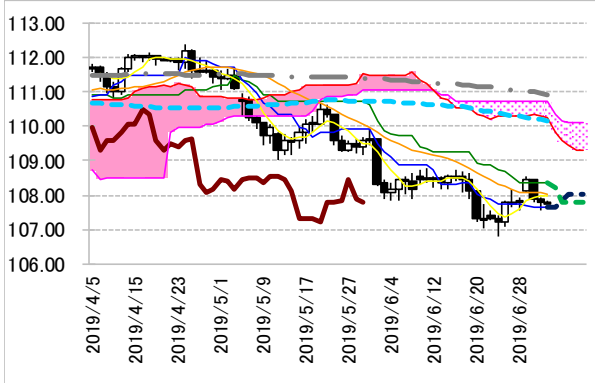
「中国と対面での通商協議、来週にも開始」

「協議中は現状の関税は撤廃しない」

「この夏にも USMCA は議会に承認される」

※時間は日本時間

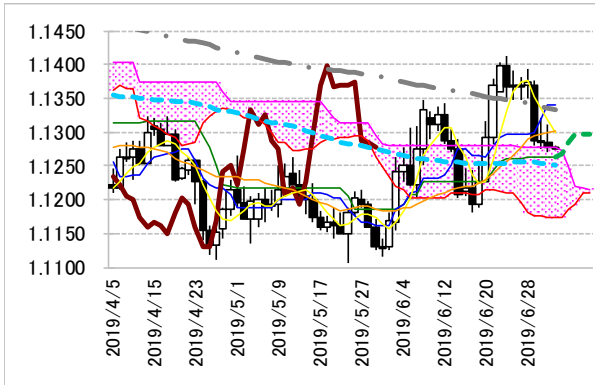
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円＝転換線付近の底堅さ維持>

下影小陰線引け。一時 107.53 円と、1 週間ぶりの安値まで下落した。一目均衡表・転換線 107.66 円を下回る同水準で下げ渋り、NY 終値では 107.81 円へ戻した。転換線付近の底堅さを維持し、同線の持ち直しとともに水準を回復するとの予想を維持する。しかし、転換線を維持し切れなければ、むしろ低下が見込まれる一目・基準線に上値が抑えられ、さえない推移が続くことになりそう。転換線と基準線の交差が想定される週末から週明けにかけての動向が鍵となる。

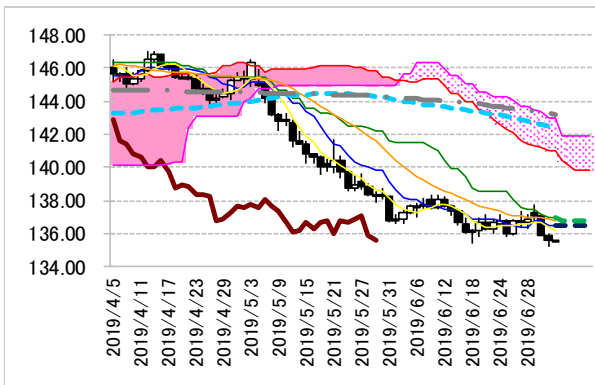
レジスタンス 2 108.80(6/11 高値)
レジスタンス 1 108.36(日足一目均衡表・基準線)
前日終値 107.81
サポート 1 107.36(ピボット・サポート 2)



<ユーロドル＝基準線を支えに 5 日線の抵抗こなす展開想定>

上影小陰線引け。1.13 ドル台を一時回復したが押し戻され、一目均衡表・雲の上限 1.1278 ドルに収れんして NY を引けている。明日から低下が始まる雲の上限の動向が示唆するような下押しも視野に入れて臨みたい。しかし、明日から上昇を再開する見込みの一目・基準線を支えに戻りを試し、1.13 ドル付近で低下中の 5 日移動平均線の抵抗をこなすと予想する。

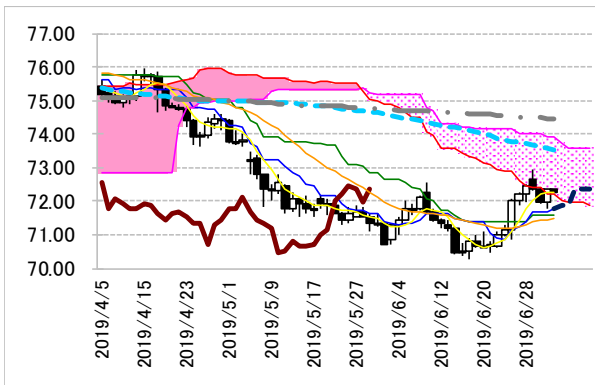
レジスタンス 1 1.1334(200 日移動平均線)
前日終値 1.1278
サポート 1 1.1229(5/30-6/25 上昇幅の 61.8%押し)



<ポンド円＝転換・基準線の動向さえ下値不安を抱く状態>

下影小陰線引け。一時 135.18 円と、フラッシュクラッシュによる下振れで年初来安値をつけた 1 月 3 日以来の安値水準で下値を探る動きとなった。安値圏ながらもみ合いを維持していた基調を崩し、一目均衡表・転換線や基準線は、136 円台で持ち直し基調から低下傾向へ状況を悪化させている。両線とともに、目先のすう勢を示す短期・5 日移動平均線付近も抵抗となりそう。下値不安の抱えた状態が続きそうだ。

レジスタンス 1 136.21(5 日移動平均線)
前日終値 135.58
サポート 1 134.76(6/28-7/1 上昇幅の下方倍返し)



<NZドル円＝転換線のサポート有効、基準線・21 日線も支え>

下影陽線引け。72 円台で低下中の一目均衡表・雲の下限付近から一時 71.78 円まで下振れた。しかし一目均衡表・転換線のサポートを下値に控えるなか下げ渋り、雲の中へ戻して NY の取引を終えた。雲の下限の低下は目先の調整の可能性を示すが、転換線のサポートが効いており、上昇が見込まれる同線とともに、雲の中で上昇するとの見方を維持する。転換線を割り込んでも、一目・基準線や 21 日移動平均線が支えとなり、大きな相場の崩れにはつながらないだろう。

レジスタンス 1 72.75(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値 72.34
サポート 1 71.77(日足一目均衡表・転換線)

